

第55回(令和2年)優秀畜産技術者賞ならびに 令和2年度 農林水産省生産局長賞受賞者業績概要のご紹介

一般財団法人日本中央競馬会弘済会の助成を受け実施している優秀畜産技術者表彰の受賞者の決定について本誌2021年4月号にてお知らせいたしました。6月に開催を予定していた表彰式は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として開催を中止いたしました。そこで、紙面にて受賞者の方々の功績について概要をご紹介します。

受賞者のみなさまの益々のご活躍をお祈り申し上げます。おめでとうございます。

石川 雄治 様 福島県農林水産部畜産課 専門獣医技師

肉用牛および豚の飼養管理技術開発、育種改良に取り組み、生産性向上やブランド化に向けた生産振興に大きく寄与した。また、東日本大震災・原発事故の発生を受け、肉用牛の生体から筋肉中の放射性セシウム濃度を推定する技術・装置開発(特許取得)に携わるなど、福島県畜産の復興・再生に貢献した。

小江 敏明 様 鳥取県農林水産部 畜産振興局 畜産課 課長補佐

全国に先駆けてマイクロサテライトマーカーを用いたDNA解析や和牛肉の「おいしさ」に関する試験研究に取り組み、その成果は県内の種雄牛造成や和牛改良に活かされるとともに、全国で初めて県有種雄牛の遺伝資源を知的財産とする条例制定に尽力するなど、その業績は鳥取県の和牛振興に大きく貢献している。

太田 剛 様 福岡県農林業総合試験場 バイオマス部 専門研究員

飼料の栽培、収穫、調製、栄養価評価、さらに、乳牛による採食性や乳生産性の評価までの広い分野で成果を出している。特にラップサイレージ体系や飼料稲・飼料麦体系など、新技術が福岡県内に導入された際に成果を出し、普及に大きく貢献した。

令和2年度農林水産省生産局長賞・優秀畜産技術者表彰特別受賞

小堤 悠平 様 一般財団法人畜産環境整備機構 畜産環境技術研究所 主任研究員

畜産業に対する苦情の約半数を占める悪臭問題の解決を目的に、臭気低減の技術開発研究に取り組んだ。日本型悪臭防止管理手法(BMP)を開発し、BMPを利用した畜産悪臭の苦情軽減手引きと事例集を取り纏めた。これら研究成果および技術開発は、畜産現場がすぐに取り組める臭気低減技術の普及に貢献した。

田原 鈴子 様 岡山県岡山家畜保健衛生所 家畜病性鑑定課 専門研究員

家畜衛生から畜産研究、畜産行政に至る幅広い業務経験を有し、中でも家畜衛生分野における研究行政は顕著である。特に細菌分野では、家畜疾病の原因菌を対象に研究・発表に精励し、サルモネラ症の研究では全国発表会で優秀賞を授与され、ボツリヌス症の研究は日本獣医師会雑誌に掲載されるなど、高い評価を得た。

辻 浩之 様 神奈川県湘南地域県政総合センター 農政部 地域農政推進課

畜産分野の普及指導業務に25年間携わり、神奈川県内の畜産経営の発展を支援した。うち13年間は肉牛経営の支援、特に牛枝肉の簡易脂肪酸計測による県産牛肉の品質向上に取り組んだほか、和牛登録や担い手支援を通じて肉牛生産基盤の安定・強化等に取り組む、神奈川県内の肉牛経営の振興に貢献した。

中川 浩 様 新潟県農業総合研究所 畜産研究センター 専門研究員

長年にわたり新潟県における和牛および乳用牛の供給用受精卵生産に大きく貢献した。また、畜産草地研究所他との共同研究では課題担当者として尽力し、試験成績創出、取りまとめに貢献するとともに、フィールド経産採卵や、受精卵凍結法の検討などでも業績を残した。

優秀畜産技術者表彰特別受賞

平山 祐理 様 独立行政法人家畜改良センター 企画調整部管理課 新技術第三係長

長年豚の胚移植技術の開発に取り組み、実用的な排卵同期化法、胚のガラス化法、生産現場で簡単に移植が行える非外科移植器具および移植法の開発に携わるとともに、学会・論文発表および多数の研修生の受け入れにより開発技術の普及に努め、国内養豚業の発展に貢献した。

牧野 司 様 北海道立総合研究機構 農業研究本部 企画調整部企画課 主査

牧草および飼料用とうもろこしの安定栽培に関する分野で、一貫して衛星データや気象データの利活用による技術開発をしてきた先駆的な研究者である。開発された技術は、技術指導や関係機関との連携等により生産現場へ着実に普及されており、自給飼料を主体とした北海道の酪農産業にも大きく貢献した。

保本 朋宏 様 広島県立総合技術研究所 畜産技術センター 育種繁殖研究部 副部長

行政部局で経産採卵技術による登録可能な和牛体外受精胚の安定作出と県内酪農家と一体となった広島県独自の画期的な和牛増頭施策を企画立案し、基盤整備を行った。研究部局では、安定的な和牛体外受精胚生産と広島県が開発したガラス化ダイレクト移植可能な保存器具の製品化と現場普及を先導し、和牛増頭に貢献した。